

編集後記

<望月 孝規>

胃のリンパ腫についてのシリーズが、本号で完結しました。多数の症例が貴重な資料と共に掲載されましたので、これを読まれた方は自験症例のように、詳しく理解しえたと思います。いろいろな肉眼的形態の型が提示されていますが、これらに基づき、胃癌の場合と同じように正しく診断することができるようになり、更に形態の変化や進展が明らかにされるであります。

病理組織学的には、なお分類の問題が残されていますが、現在、国際的に討議されている、リンパ節悪性リンパ腫の良い組織学分類が将来確定し、それが胃にも妥当するか否か検討されることになると思います。その際の肉眼的形態、進展様式、予後などとの関連についての資料として、本シリーズの症例と論文は重要であります。

早期胃癌研究会が、このような重点的企画を取り上げたことは、この領域でも、長年月にわたる研究と進歩が著しかったことを示すものであり、これを一つの踏み台として、更に研究の発展が期待されます。